

(19)日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開2000-325181

(P2000-325181A)

(43)公開日 平成12年11月28日(2000. 11. 28)

(51)Int.Cl. ⁷	識別記号	F I	テマコード [*] (参考)
A 4 7 C	7/54	A 4 7 C 7/54	Z 3 B 0 8 4
	7/62	7/62	Z 3 B 0 8 7
// B 6 0 N	2/46	B 6 0 N 2/46	3 B 0 8 8
	3/00	3/00	A
			Z
審査請求 未請求 請求項の数 2 O L (全 5 頁)			

(21)出願番号 特願平11-139629

(22)出願日 平成11年 5 月20日(1999. 5. 20)

(71)出願人 000110321

トヨタ車体株式会社

愛知県刈谷市一里山町金山100番地

(72)発明者 岡田 果織

愛知県刈谷市一里山町金山100番地 トヨタ車体株式会社内

(72)発明者 井上 忠一

愛知県刈谷市一里山町金山100番地 トヨタ車体株式会社内

(74)代理人 100107700

弁理士 守田 賢一

Fターム(参考) 3B084 JA08 JC00

3B087 DC04

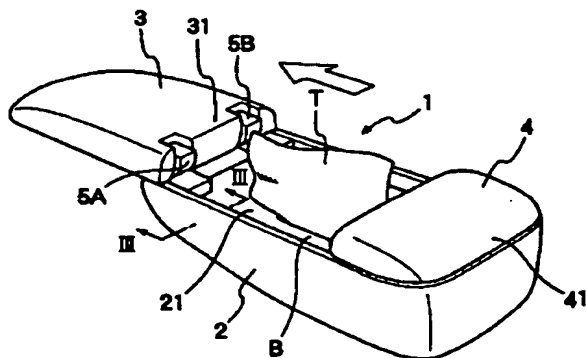
3B088 AA03 CA04

(54)【発明の名称】 車両シートのアームレスト

(57)【要約】

【課題】 アームレスト使用時のトレーや収納箱の自在な使用が可能であるとともに、デザイン上の自由度が向上する。

【解決手段】 アームレスト1を、上方へ開口する容器状の本体2とこれを覆う蓋体3、4で構成し、前側蓋体3をスライド開放可能とするとともに開放状態で本体開口21上へ反転可能とし、反転状態の前側蓋体3の裏面をトレーとして使用する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 アームレストを、上方へ開口する容器状の本体とこれを覆う蓋体で構成し、前記蓋体をスライド開放可能とするとともに開放状態で本体開口上へ反転可能とし、反転状態の蓋体裏面をトレーとして使用することを特徴とする車両シートのアームレスト。

【請求項2】 アームレストを、上方へ開口する容器状の本体とこれを覆う蓋体で構成し、前記蓋体を反転開放可能とするとともに開放状態で本体開口上へスライド可能とし、反転状態の蓋体裏面をトレーとして使用することを特徴とする車両シートのアームレスト。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は車両シートに設けるアームレストに関し、特に物入れやトレーとして使用できるアームレストに関する。

【0002】

【従来の技術】運転席や助手席の車両シートの室内側側面にアームレストを設けたものがあり、近年は居住性を高めるためにアームレストは大型化する傾向にある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、アームレストの直下には通常、トレーや収納箱を設けたコンソールボックスが位置しており、アームレストを使用しているとコンソールボックス上のトレー等を使いづらいという問題があった。そしてこれは、アームレストを大型化した場合に特に問題となる。また、大型のアームレストとコンソールボックスを車室内の狭い空間内に配置する必要があるために、デザイン上の自由度が制約され、さらには、ティッシュの身近な置き場所が無いという問題もあった。

【0004】そこで、本発明はこのような課題を解決するもので、アームレスト使用時にもトレーや収納箱の自在な使用が可能であるとともに、デザイン上の自由度も向上する車両シートのアームレストを提供することを目的とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】上記目的を達成するために、本第1発明では、アームレスト(1)を、上方へ開口する容器状の本体(2)とこれを覆う蓋体(3)で構成し、蓋体(3)をスライド開放可能とするとともに開放状態で本体開口(21)上へ反転可能とし、反転状態の蓋体(3)裏面をトレーとして使用するものである。

【0006】本第1発明においては、容器状のアームレスト本体をティッシュ等の収納箱として使用できるとともに、スライド開放させて反転させた蓋体の裏面をトレーとして使用することができるから、従来のように大型のアームレストを使用中にコンソールボックスのトレーや収納箱が使いづらいという問題は生じない。また、トレー等を設けたコンソールボックスを前席シート間の狭

い空間に設ける必要がないからデザイン上の自由度が向上する。

【0007】また、本第2発明では、アームレスト(1)を、上方へ開口する容器状の本体(2)とこれを覆う蓋体(3)で構成し、蓋体(3)を反転開放可能とするとともに開放状態で本体開口(21)上へスライド可能とし、反転状態の蓋体(3)裏面をトレーとして使用する。

【0008】本第2発明においては、本第1発明と同様の作用効果が得られるとともに、蓋体を反転させるヒンジ機構を設けた場合に、蓋体閉鎖状態ではヒンジ機構が外部へ露出しないようにでき、見栄えが向上する。

【0009】なお、上記カッコ内の符号は、後述する実施形態に記載の具体的手段との対応関係を示すものである。

【0010】

【発明の実施の形態】(第1実施形態)図1に示す車両の前席シートSには車室側の側面に本発明になるアームレスト1が設けられている。アームレスト1はシートS側面の上下の中間位置に水平に設けられており、下半の細長い容器状本体2と、当該本体2を覆う上半の蓋体3、4により構成されている。蓋体3、4は大型の前側蓋体3と小型の後側蓋体4で構成され、これら蓋体3、4によって、前後に区画された本体2の開口がそれぞれ覆われている。前側蓋体3は後述の構造によって図2に示すように、前方へスライドさせて開放状態とされ、この状態で、本体2の前側開口21内に収納されたティッシュボックスB等の紙Tを使用することができる。

【0011】すなわち、前側蓋体3は樹脂材のブロー成形等により中空厚肉の板体状に成形されており、その後端31の両側にはヒンジ部材5A、5Bが設けられている。ヒンジ部材5Aは図3、図4に示すように、基部51とこれより上方へ側面視でフ字形(図4)に延びる一定幅の腕部52とからなり、腕部52の円形に成形された先端521は前側蓋体3の基端31に形成された開口311よりその内部へ進入して、前側蓋体3の円弧状に湾曲する内面に近接している。上記先端521の側面には回転軸522が突設されており、この回転軸522は前側蓋体3の内部空間に形成された支持壁33(図3)の軸受け開口(331)内に挿入されている。ヒンジ部材5Aの基部51は下半が側方へ突出し(図3)、この突出部511は本体2側壁の上縁内面に前後方向(図2の左右方向)へ形成された凹溝レール22内に、これに沿って摺動可能に嵌装されている。なお、ヒンジ部材5Bもその突出部や回転軸が反対方向へ形成されている点を除いてヒンジ部材5Aと同形である。

【0012】このような構造により、ヒンジ部材5A、5Bを凹溝レール22内で摺動させて、既述のように前側蓋体3を前方へスライド開放させることができるとともに(図2の矢印)、スライド開放させた状態で、ヒン

ジ部材5A、5Bの回転軸522を中心に図4の矢印で示すように前側蓋体3を後方へ反転させることができる。反転状態の前側蓋体3の基端31断面を図5に示すとともに、全体斜視図を図6に示す。反転させられた前側蓋体3は、本体2の前側開口21(図2)を覆うように本体2の左右の側壁上へ載せられ、この状態で、滑り止めシート32を張った前側蓋体3の裏面を、図6に示すように食べ物F等を置くためのトレーとして使用することができる。

【0013】本体2の後側開口23(図6)を覆う後側蓋体4は、その基端41が公知のヒンジ金具42によって本体2の後縁に結合されており、図6に示すように後方へ回動開放することができる。本体2の後側開口23内はタバコC等を入れる小物入れとなっており、また、後方へ反転回動させられた後側蓋体4の裏面43は全体が皿状に凹陷して、ここを後席シートの乗員のためのトレーとして使用することができる。

【0014】このように、本実施形態のアームレストによれば、容器状のアームレスト本体2を収納箱として使用できるとともに、開放反転させた各蓋体3、4の裏面をトレーとして使用することができるから、従来のように大型のアームレストに妨げられてコンソールボックスのトレーや収納箱を使いづらいという問題はない。また、トレー等を設けたコンソールボックスを前席シート間の狭い空間に設ける必要がないからデザイン上の自由度も向上する。

【0015】(第2実施形態)図7、図8には本発明の他の実施形態を示す。本実施形態では前側蓋体3はその前端34が、既に第1実施形態で説明したのと同様のヒンジ部材に結合されて、図7の矢印で示すように前方(図7の左方)へ反転回動可能となっている。図8には蓋体3を反転回動させて前側開口21を開放した状態を示し、この状態で、前側開口21内に収納されたティッシュボックスB等の紙を使用することができる。

【0016】ヒンジ部材5A、5Bは第1実施形態で説明したように、本体2側壁の上縁内面に前後方向へ形成された凹溝レール22内に、これに沿って摺動可能に設けられている。したがって、反転開放された蓋体3を図8の矢印で示すように後方へスライド移動させて前側開口21を覆うように本体2の左右の側壁上へ載せれば、

この状態で、前側蓋体3の裏面を、第1実施形態と同様に(図6参照)食べ物等を置くためのトレーとして使用することができる。なお、後側蓋体4の構造は第1実施形態と同様である。

【0017】本実施形態のアームレスト1によれば、上記第1実施形態のアームレストにおける作用効果に加えて、前側蓋体3を閉鎖した状態では図7に示すようにヒンジ部材5A、5Bが外部へ露出しないから見栄えが良い上に、アームレスト1に表皮を巻きつけ易いという効果もある。

【0018】なお、上記各実施形態ではアームレスト本体2に前側蓋体3と後側蓋体4を設けたが、後側蓋体4を省略することもできる。また、前側蓋体3をスライドおよび反転させる構造は上記実施例のものに限られるものではない。

【0019】

【発明の効果】以上のように、本発明の車両シートのアームレストによれば、トレーや収納箱の自在な使用が保証されるとともに、デザイン上の自由度も向上する。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の第1実施形態における、アームレストを設けた車両の前席シートの後方斜視図である。

【図2】前側蓋体をスライド開放した状態のアームレストの後方斜視図である。

【図3】図2のIII-III線に沿った断面図である。

【図4】図3のIV-IV線に沿った断面図である。

【図5】反転させられた前側蓋体の基端部断面図である。

【図6】前側蓋体を反転させるとともに後側蓋体を開放した状態のアームレストの後方斜視図である。

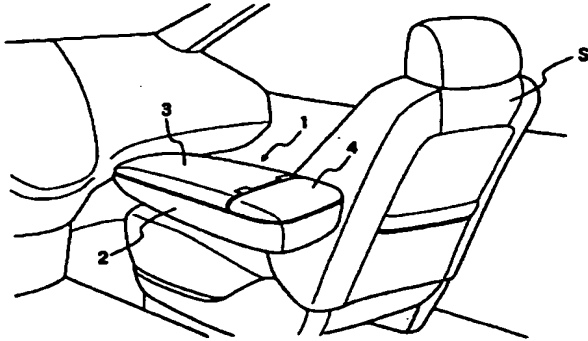
【図7】本発明の第2実施形態における、蓋体閉鎖状態でのアームレストの後方斜視図である。

【図8】前側蓋体を反転開放した状態のアームレストの後方斜視図である。

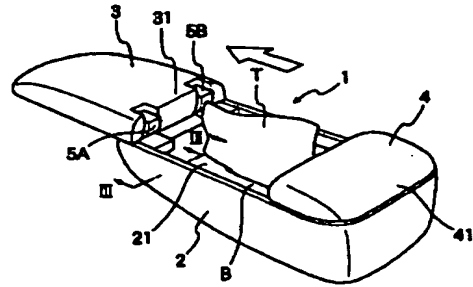
【符号の説明】

1…アームレスト、2…本体、21…前側開口、22…凹溝レール、23…後側開口、3…前側蓋体、4…後側蓋体、42…ヒンジ金具、5A、5B…ヒンジ部材、51…基部、511…突出部、52…腕部。

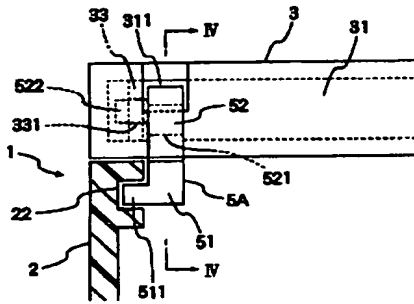
【図1】



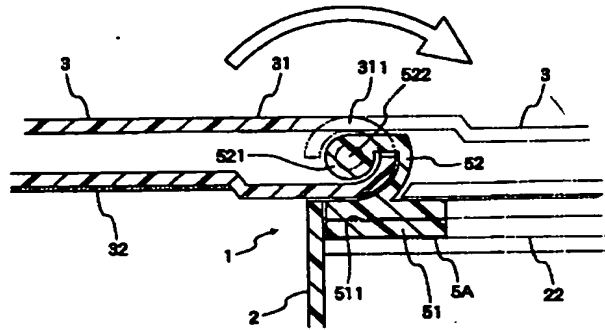
【図2】



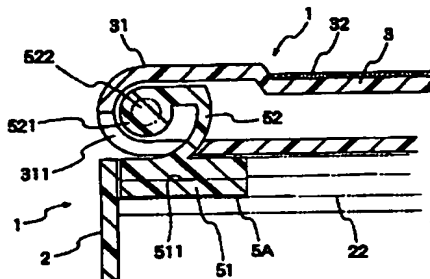
【図3】



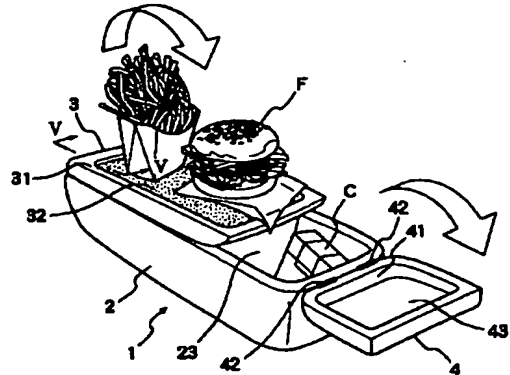
【図4】



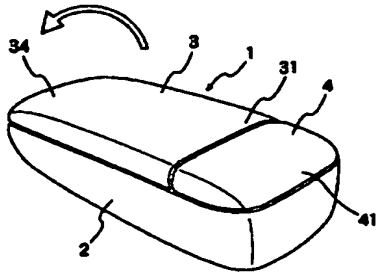
【図5】



【図6】



【図7】



【図8】

